

2024年（令和六年）

4月19日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カシドキ10階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

当週(4月11日～17日)の国際石油市場は、堅調に推移した。WTI先物は、利下げ先送り観測による反落の85.02ドルで始まり、週末12日はイランによるイスラエル報復攻撃予想で反発85.66ドルに達したが、12日夜から13日未明にかけてのイランのイスラエルに対するミサイル・ドローンによる初の直接攻撃があったにもかかわらず、週明け15日はイランによる限定攻撃との見方から反落、17日は様子見・ポジション調整の動き・米国原油在庫の予想を上回る積み増し等で3日続落、82.69ドルで終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場(6月渡し)も、前週(4月4日～10日)89.50～90.80ドルの範囲で推移したが、当週は、4月11日90.40ドル、12日90.40ドル、15日89.90ドル、16日90.60ドル、17日89.50ドルと推移した。

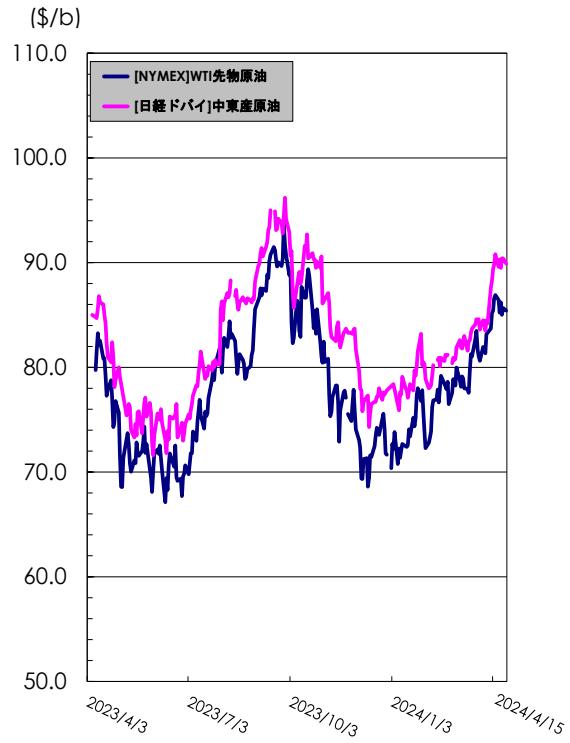
対ドル為替レート(ETM)は前週(4月4日～10日)150.99～151.98円の範囲で推移したが、当週は、4月11日153.01円、12日153.09円、15日153.46円、16日154.42円、17日

154.79円と、円安が進んだ。

財務省が4月17日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、3月下旬の原油輸入平均CIF価格77,209円で前旬比1,546円安、ドル建て82.81ドルで前旬比0.64ドル安、為替レートは1ドル/148.22円。3月の原油輸入平均CIF価格78,016円で前月比137円高、ドル建て83.00ドルで前月比0.58ドル安、為替レートは1ドル/149.44円。

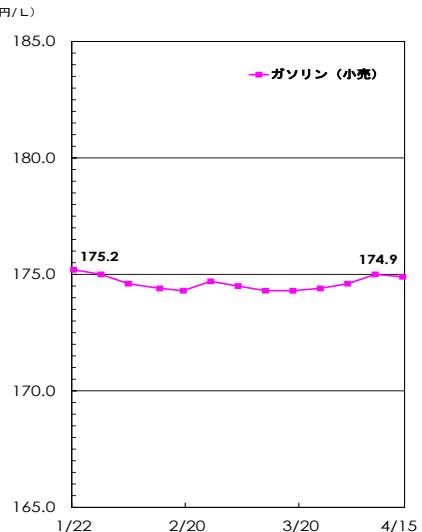
そのような中で、4月15日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円安、軽油も同0.1円安、灯油は横ばい(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.9円となった。4月18日～24日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は30.0円(補助金がない場合の次週予想価格204.8円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は19.8円)となった。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	4/7～4/13	2,743	▲ 31	▼ -
	トップ稼働率 (%)	〃	76.3	▲ 0.8	▼ -
	原油在庫量 (千㎘)	4/13	10,778	▼ -43	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	4/15	89.90	▲ 0.30	▲ 3.9
	WTI先物原油 (NYMEX) (\$/bbl)	4/15	85.41	▼ -1.02	▲ 4.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月下旬	82.81	▼ -0.64	▼ -2.62
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	〃	77,209	▼ -1,546	▲ 4,721
	②ドル換算レート (¥/\$)	〃	148.22	▲ 1.82	▼ -13.32
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/15	154.46	▼ -1.66	▼ -19.57



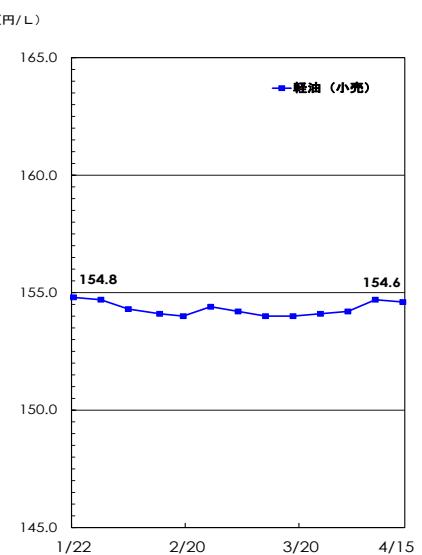
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	生産	4/7 ~ 4/13	872	▼ -7	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	792	▲ 80	▼ -
	輸出	"	15	▼ -81	▼ -
	在庫	4/13	1,699	▲ 65	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/9 ~ 4/15	83.0	▲ 0.4	▲ 10.0
		(TOCOM/中部) 4/15	82.0	► 0.0	▲ 7.0
	小売 [週動向]	(資工序公表) 4/15	174.9	▼ -0.1	▲ 6.7

※業転、先物価格は税抜き価格

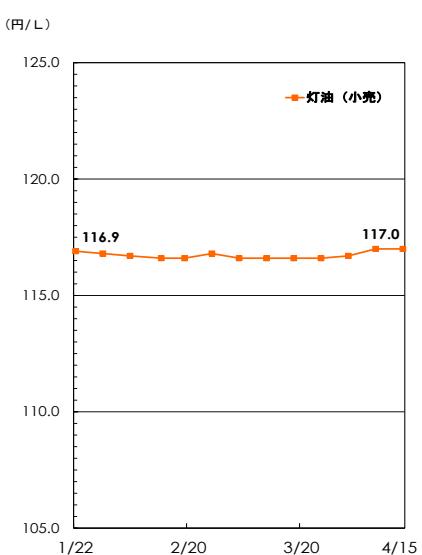


軽油		今週		前週比	前年比
需給	生産	4/7 ~ 4/13	666	▼ -42	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	565	▼ -73	▲ -
	輸出	"	82	▼ -10	▼ -
	在庫	4/13	1,339	▲ 20	▲ -
価格	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	4/9 ~ 4/15	84.3	► 0.0	▲ 5.5
	(TOCOM/中部)	4/15	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/15	154.6	▼ -0.1	▲ 6.3

必修一 生物的多样性



灯油		今週		前週比	前年比
需給	生産	4/7 ~ 4/13	219	▲ 78	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	76	▼ -106	▼ -
	輸出	"	31	▲ 11	▲ -
	在庫	4/13	1,162	▲ 111	▼ -
価格	先物 (TOCOM/東京湾)	4/9 ~ 4/15	83.0	► 0.0	▲ 8.0
	[期近物/終値] (TOCOM/中部)	4/15	83.0	► 0.0	▲ 6.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/15	117.0	► 0.0	▲ 5.9



■ 関連情報

1 海外/原油 (WTI原油先物市場)

前週(4/4~4/10)のNYMEX・WTI先物市場は85.23~86.91ドルの範囲で推移した。

当週、4月11日は、前日発表の3月の消費者物価指数(CPI)の好調さによる利下げ先送り観測、ポートアーサー製油所の一部稼働停止による原油需要の停滞などの要因で反落した。ただ、中東情勢の緊迫、OPECによる世界石油需要の予測(24年前年比225万b/d増、25年同185万b/d増)据え置きなど、値上がり要因もあり底値は固かった。5月物終値は前日比1.19ドル安の85.02ドル。

週末12日は、数日中にイランがイスラエルに、1日の在シリア・イラン大使館への攻撃に対する報復攻撃に出るとの米国筋の発表で、緊張が高まり、反発した。ただ、この日発表の国際エネルギー機関(IEA)の月報で2024年の需要見通しを下方修正したこと、為替相場のドル高・ユーロ安は上値を抑えた。5月物終値は前日比0.64ドル高の85.66ドル。

週明け15日は、13日夜から14日未明にかけて、イランがミサイル・ドローンによる初のイスラエルに対する直接攻撃

が発生したが、イランは事態の拡大を望まない旨を発表、一段落したとの見方から、利益確定売りなどが相次ぎ、反落した。ただ、攻撃されたイスラエルの対応など不透明感も強く、緊張は続いている。5月物終値は前日比0.25ドル安の85.41ドル。

16日は、中東情勢の緊張が続く中、イランの報復攻撃は限定的との見方から、小幅に続落した。ただ、イスラエルの反撃の懸念、G7による対イラン経済制裁強化の懸念もあり、下値は限られた。米国の金利引き下げの先送り観測の高まりも値下がり要因。5月物終値は前日比0.05ドル安の85.36ドル。

17日は、米国の利下げ時期の先送り観測が高まり、先行きの需要懸念、米国の原油在庫の予想を上回る積み増し、さらには、イラン・イスラエル情勢様子見のポジション調整もあって、3日続落した。5月物終値は、同2.67ドル安の82.69ドル。

2 海外/米国石油市場

4月17日発表の12日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間庫存統計は、原油が前週比270万バレル増と市場予想(140万b/d増)を上回る4週連続の積み増しであったが、ガソリンも同120万バレル減と市場予想(90万b/d減)を上回る取り崩しであった。

EIAによると4月15日時点、ガソリンの小売価格は、前週比3.7セント高の1ガロン3.628ドル(147.9円/㍑)と2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比4.6セント安の1ガロン4.015ドル(163.6円/㍑)と2週ぶりの値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置

は、4月12日時点で、前週比2基減の506基と2週ぶりの減少であった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年4月7日~4月13日に休止したトッパー能力は46.0万バレル/日で、前週に対して7.3万バレル/日減少した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は274.3万㎘と、前週に比べ3.1万㎘増加。前年に対しては11.9万㎘の減少。トッパー稼働率は76.3%と前週に対して0.8ポイントの増加、前年に対しては0.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.8%減、ジェット/20.7%減、灯油/55.4%増、軽油/6.0%減、A重油/11.3%減、C重油/9.1%減。今週のC重油の輸入は0.0万㎘(前週比横ばい)。軽油の輸出は8.2万㎘(前週比1.0万㎘減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリンが増加し、その他の油種で減少した。前年比では軽油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は79.2万㎘(対前週11.1%増)と3週振りに増加した。ジェット6.9万㎘(対前週28.5%減)、灯油7.6万㎘(対前週58.0%減)、軽油56.5万㎘(対前週11.5%減)、A重油16.4万㎘(対前週5.3%減)、C重油10.7万㎘(対前週18.1%減)。

(単位:千㎘)

	今週 (4/7 ~ 4/13)	前週 (3/31 ~ 4/6)	前週比
ガソリン	792	712	▲ 80 (11%)
ジェット燃料	69	97	▼ -28 (-29%)
灯油	76	182	▼ -106 (-58%)
軽油	565	638	▼ -73 (-11%)
A重油	164	173	▼ -9 (-5%)
C重油	107	130	▼ -23 (-18%)
合 計	1,773	1,932	▼ -159 (-8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

4月13日時点の在庫はジェットが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンは169.9万kl、前週差6.5万kl増。前年に対しては2.4万kl多い。

灯油は116.2万kl、前週差11.1万kl増。前年に対しては12.0万kl少ない。

軽油は133.9万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては4.4万kl多い。

A重油は65.4万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては5.5万kl少ない。

C重油は181.8万kl、前週差4.5万kl増。前年に対しては9.9万kl多い。

	今週 (4/13)	前週 (4/6)	(単位:千KL) 前週比
ガソリン	1,699	1,634	▲ 65 (4%)
ジェット燃料	684	698	▼ -14 (-2%)
灯油	1,162	1,051	▲ 111 (11%)
軽油	1,339	1,319	▲ 20 (2%)
A重油	654	634	▲ 20 (3%)
C重油	1,818	1,773	▲ 45 (3%)
合計	7,356	7,109	▲ 247 (3.5%)

5 国内/元売会社製品卸価格

4月9日～4月15日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、円建て輸入原油価格は値上がりし、元売会社の卸価格建値は値上げになったものと見られる。

上記コスト上げに、補助金増額分を考慮すると、4/18～4/24の実質卸価格はわずかな値上げとなった模様。

6 国内/製品小売価格

4月15日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安い174.9円、軽油も0.1円安い154.6円、灯油は18.1円ベースで横ばいの2,106円(1ドルベースでも横ばいの117.0円)。ガソリンは5週ぶりの値下がり、軽油も5週ぶりの値下がり、灯油は3週ぶりに値上がりが止まった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが20都道府県、横ばいは5県、値下がりが22府県だった。全国最安値は岩手県の168.1円、その次は宮城県と岡山県の169.7円であった。他方、最高値は長野県の185.7円。最も値上がりしたのは徳島県(同1.0円高)、最も値下がりしたのは長崎県(同1.4円安)だった。

次回調査時(4/22)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(資源公表) [週動向]	今週 (4/15)	前週 (4/8)	前週比	直近高値
レギュラー	174.9	175.0	▼ -0.1	23/9/4 186.5
灯油	117.0	117.0	► 0.0	08/8/11 132.1
軽油	154.6	154.7	▼ -0.1	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) に掲載しています。

次回（2024第4号）の公表は、4/26（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。